



よこはま



小野寺防衛大臣の住宅防音工事 現場視察



住宅防音工事の現場で、住民（左写真）、施工業者（上写真）から説明を受ける小野寺大臣

平成25年1月21日（月）、小野寺防衛大臣による厚木飛行場周辺の住宅防音工事現場の視察が、海上自衛隊横須賀地区の初度視察に引き続き行われました。また、この視察の機会を捉え、小野寺防衛大臣と大木大和市長及び笠間綾瀬市長との面談が行われました。

◇目次◇

- 1 中央即応集団司令部のキャンプ座間への移転
- 2 特集 陸上自衛隊中央即応集団
- 3 第20回防衛問題セミナーの開催
- 4 日米交流事業「交流館」の実施
- 5 日米衛生特別訓練
- 6 日米合同原子力防災訓練
- 7 局長感謝状贈呈
- 8 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施
- 9 横須賀防衛事務所庁舎移転のお知らせ
- 10 移転措置事業における附帯農地等の買入年限の設定について(お知らせ)

1 中央即応集団司令部のキャンプ座間への移転

陸上自衛隊中央即応集団（CRF）司令部が在日米陸軍キャンプ座間内に移転し、平成25年3月26日（火）、移転完了に伴う各種の行事が行われました。

座間市役所前における座間市主催の表敬行事



座間市役所前広場における座間市主催表敬行事の様子
（写真提供：中央即応集団司令部）



座間市マスコットキャラクター「ざまりん」から歓迎の花束贈呈
（写真提供：中央即応集団司令部）

キャンプ座間の沿道での歓迎と在日米陸軍による歓迎行事



キャンプ座間内では、在日米陸軍軍楽隊のパレードに先導され入場

キャンプ座間沿道において、協力団体、地元有志による出迎え、歓迎を受け入場
（写真提供：中央即応集団司令部）





在日米陸軍の歓迎を受け、在日米陸軍司令官 ハリソン少将と堅い握手をする中央即応集団司令官 日高陸将(左)
(写真提供：中央即応集団司令部)

司令部庁舎前での移転完了行事



移転完了を祝してのテープカット(写真上)と陸上自衛隊と在日米陸軍との連携強化、地域の方々との常続的な友好を表す堅い握手(写真左)
写真左から、加山相模原市長、山本南関東防衛局長、日高CRF司令官、ハリソン在日米陸軍司令官、森山陸幕防衛部長、遠藤座間市長
(写真提供：中央即応集団司令部)

日高司令官式辞
(写真提供：中央即応集団司令部)



2 特集 中央即応集団 (CRF)

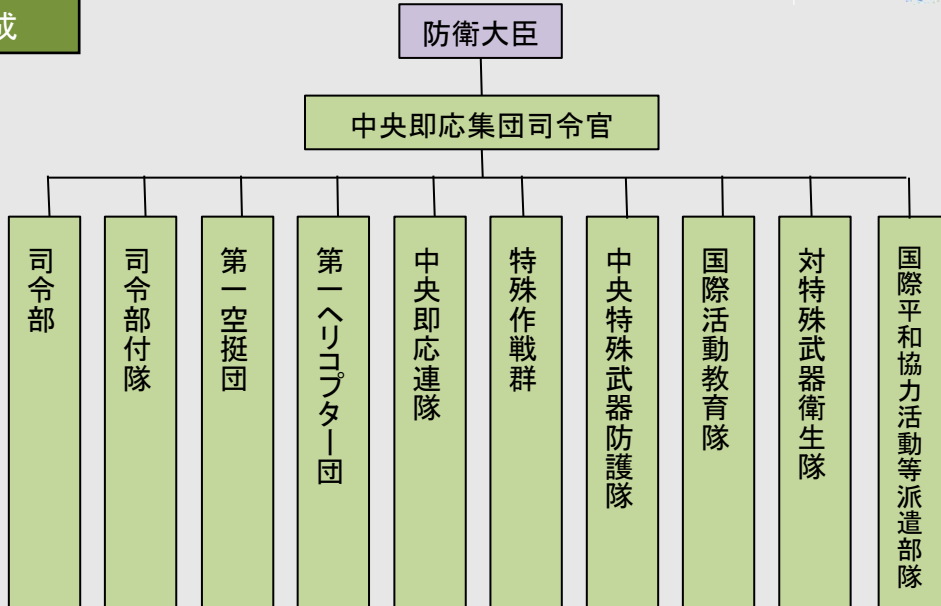
南関東防衛局管内における重要な自衛隊部隊の再編事業として、陸上自衛隊中央即応集団司令部及び同付隊が在日米陸軍キャンプ座間内への移転が完了。中央即応集団の組織、任務は次のとおりであり、この機会に中央即応集団について、特集として紹介いたします。

中央即応集団は、多様化する自衛隊の任務に、より即応性、機動性を高めて対応するために平成19年3月に新編された部隊です。

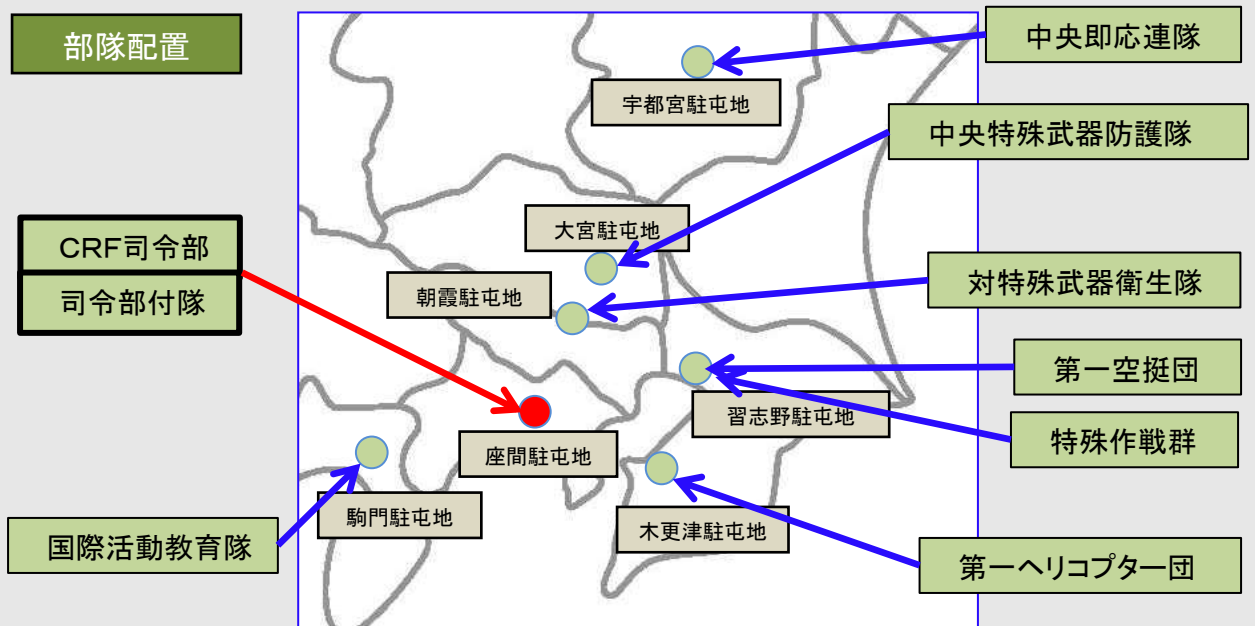
平成18年5月に日米安全保障協議委員会(2+2)で承認された「再編実施のための日米ロードマップ」において、中央即応集団司令部が平成24年度までにキャンプ座間に移転することとされました。



編 成



部隊配置



※ 南関東防衛局管内には、CRF司令部及び司令部付隊並びに国際活動教育隊が所在

任務・役割

国内での活動

ゲリラや特殊部隊等による攻撃等が行われた場合には、迅速に、各地に部隊を派遣し、対処するための機動運用部隊と各種の専門機能を有した部隊を運用しています。

また、大規模災害等が発生した際には、これらの機能を活用し、迅速に部隊を派遣するとともに、対処する方面隊への増援等を行います。

国際平和協力活動等

国際任務においては、統合幕僚監部、陸上幕僚監部、各方面隊及び海空自衛隊と総合的な調整を実施するとともに、防衛大臣の命令により派遣部隊を指揮します。

また、全国の派遣要員に対し国際平和協力活動等に係る教育を実施するとともに、各方面隊が計画する訓練を支援します。

司令部及び各部隊の紹介

司令部及び司令部付隊

神奈川県：座間駐屯地

司令部は、隷下部隊及び海外で国際平和協力活動等に従事する部隊を指揮し、司令部付隊は、司令部が効果的に指揮機能を発揮するための管理部隊です。

第1空挺団

千葉県：習志野駐屯地

陸上自衛隊唯一の落下傘部隊。

航空自衛隊の輸送機や陸上自衛隊の輸送ヘリから、作戦目標にパラシュートにより降下し、迅速に展開、作戦を遂行する陸上自衛隊の精鋭部隊です。

第1ヘリコプター団

千葉県：木更津駐屯地

陸上自衛隊最大の航空部隊。

大型輸送ヘリコプターCH-47や多用途ヘリコプターUH-60を配備し、各種の事態に際し、人員や物資を迅速に輸送します。東日本大震災の際には、その輸送力、機動力を発揮し、救援物資の輸送や捜索救難のための派遣隊員の輸送に従事しました。

また、EC-225ヘリコプターによる要人輸送を行う特別輸送ヘリコプター隊も擁しています。



第1空挺団による降下訓練

(写真提供：中央即応集団司令部)



第1ヘリコプター団による空輸

中央即応連隊

栃木県：宇都宮駐屯地

国内における各種の事態に際し、対処する方面隊の増援部隊としていち早く派遣されます。

また、国際平和協力活動等においては、先遣隊としていち早く派遣され、主力部隊が到着後に効率的、効果的に活動できるよう、活動基盤を構築します。

特殊作戦群

千葉県：習志野駐屯地

ゲリラや特殊部隊による攻撃に対処するための専門部隊です。

中央特殊武器防護隊

埼玉県：大宮駐屯地

特殊武器（核・生物・化学兵器）の対処を専門とする部隊です。

対特殊武器衛生隊

東京都、埼玉県：朝霞駐屯地

生物剤の同定（使用された生物剤の種類の特定）や治療を専門とする陸上自衛隊唯一の部隊です。



派遣前訓練を行う中央即応連隊

ガスの検知訓練を行う
中央特殊武器防護隊



生物剤対処訓練を行う対特殊武器衛生隊

国際活動教育隊

静岡県：駒門駐屯地

国際平和協力活動等に必要な教育訓練等を実施する部隊です。
具体的には、次の業務を実施しています。

- ①国際活動に派遣される部隊等の要員や国際活動に係る業務に従事する要員に対し、必要な知識・技能を修得させるための隊員に対する教育を実施。
- ②国際活動に従事する部隊、国際活動に備え待機を指定された部隊等が実施する事前準備、それぞれの方面隊、部隊が練度の維持向上のために実施する訓練の支援を実施。※

※ 陸上自衛隊では、現在実施している国際平和協力活動等に対し、あらかじめ次に派遣される部隊が指定されており、また、いつ派遣の所要が生起するかわからない国際緊急援助活動に迅速に対応するため、あらかじめ方面隊を指定し、待機態勢をとっています。

国際活動の紹介

活動中の国際活動

南スーダンにおける国際平和協力業務(PKO)
国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)

- 南スーダン現地支援調整所要員 約20名
- 南スーダン派遣施設隊 約330名

国連の協力要請に対し、平成24年3月より活動。南スーダン共和国の首都ジュバ及びその周辺の道路整備などの施設作業を実施。現地社会に役立つ活動に貢献しています。



ジュバイエイ間 基幹道路補修 (測量)



ジュバ市ナバリ地区
コミュニティ道路整備 (警備)



ジュバイエイ間 基幹道路補修

(写真提供：中央即応集団司令部)

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処

派遣海賊対処行動航空隊(DAPE) 陸上自衛隊要員 約70名

ソマリア沖・アデン湾において、我が国関係船舶を海賊行為から防護するため、水上、航空部隊を派遣。水上部隊は、平成21年3月より、航空部隊は、同年6月よりそれぞれ活動。護衛艦による民間船舶護衛やP-3C哨戒機による海賊の確認作業を実施。

陸上自衛隊要員は、ジブチの活動拠点においてP-3C警備などの任務に従事しています。



活動拠点においてP-3Cの警備にあたる隊員



派遣先での射撃訓練の様子

東日本大地震における福島での災害派遣活動の紹介



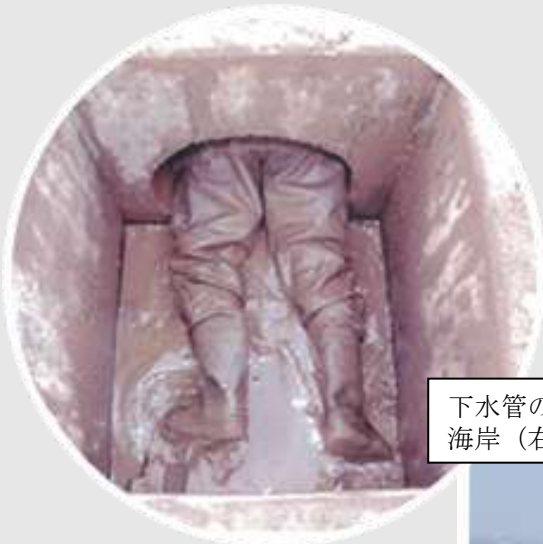
原発への放水(上)と車両の除染(下)



原発上空からの放射線量測定



被災者の避難の様子



下水管の中(左上)や、瓦礫をどかし(左下)、真冬の海岸(右下)で、捜索活動を実施する隊員の様子



3 第20回防衛問題セミナーの開催

「日米同盟 ～CRF司令部のキャンプ座間への移転～」



主催者挨拶
山本局長



来賓挨拶：(上)ハリソン在日米陸軍司令官、(中)日高中央即応集団司令官
(下)小池相模原市副市長

来賓挨拶：
遠藤座間市長

平成25年1月29日(火)、神奈川県座間市のハーモニーホール座間において、第20回防衛問題セミナーを開催しました。

今回のセミナーは、「日米同盟 ～CRF司令部のキャンプ座間への移転～」をテーマに、中央即応集団司令部が朝霞駐屯地からキャンプ座間に移転する機会を捉え、在日米陸軍司令部との連携強化等、日米の防衛協力における実効性の向上についてご理解をいただき、CRF司令部の円滑な移転に向けた地域の皆様のご支援、ご協力が得られるよう開催したものです。

山本局長による主催者挨拶及び座間市長等による来賓挨拶の後、CRF司令部の移転により日米間で一致団結し取り組んでいく気持ちと、地域の方々との常続的な友好を表し、関係者による固い握手が交わされ、会場を訪れた約340名の参加者からもCRF司令部の移転について歓迎の拍手が鳴り響きました。



講演1:「CRFの任務と役割」の一端
中央即応集団司令部幕僚副長 青木1等陸佐

- ・CRF司令部の任務と役割、隷下部隊などの概括説明
- ・東日本大震災における福島での原子力災害派遣時の活動(記録映像を上映)
- ・南スーダンでのPKO活動(派遣隊長からのビデオレター)など

講演2:「国土防衛における日米同盟の意義」の一端
日本経済新聞社国際部編集委員 春原剛氏

- ・台頭する中国の狙い、米国のアジア重視の背景にある中国の戦略
- ・国土防衛における陸上戦力の重要性は不変
- ・CRF司令部の移駐により在日米陸軍司令部との連携強化の意義など



セミナー開催前に座間、相模原両市の地元自治会関係者等を対象としたキャンプ座間基地内ツアーを実施、CRF司令部庁舎及び隊庁舎の外観などを視察し、地元の方々への理解促進の一助になったものと考えています。(左写真:ブリーフィング会場)

4 日米交流事業「交流館」の実施

平成24年12月16日(日)、日米文化交流体験イベント「交流館」を、キャンプ座間に隣接した相模原市立もえぎ台小学校で開催しました。

今回の日米交流事業では、地域の方々の協力を得て、お節料理のお重詰めや野点によるお茶などの体験、けん玉や竹とんぼ作りなどの日本の昔遊びの体験が行われ、米側からは、ガールスカウトによるピーナッツバター&ジェリーサンドウィッチが振る舞われました。

特に、おせちの具材に込められた由来などを説明しながら、自由にお重詰めしていくイベントや昔遊びに参加者が多数集まるなど大盛況で、日米の交流を深める絶好の機会となりました。

当日は好天にも恵まれ、約100名の米軍人とその家族が交流館に訪れ、参加者からはこのような交流が続けばうれしいという声が寄せられていました。



綿菓子作りを楽しむ米軍関係者



初めてのおにぎりを体験



お茶の作法を体験

各イベントの運営を行われた地元団体等

- 竹とんぼ・・・相模原どこ竹とんぼ会
- 射的・・・グリーンパーク自治会
- 野点・・・茶道裏千家
- 綿菓子・はねつき・けんだま・・・相武台団地連合自治会
- おにぎり・おせち・・・わかな会の皆様
- ☆サンドイッチ・・・陸軍ガールスカウト



(写真：上) 地元代表者に記念の旗を贈呈。在日米陸軍基地管理本部ティリー大佐の直筆のサインも

(写真：左) 在日米陸軍基地管理本部ティリー大佐もお重詰めに参加

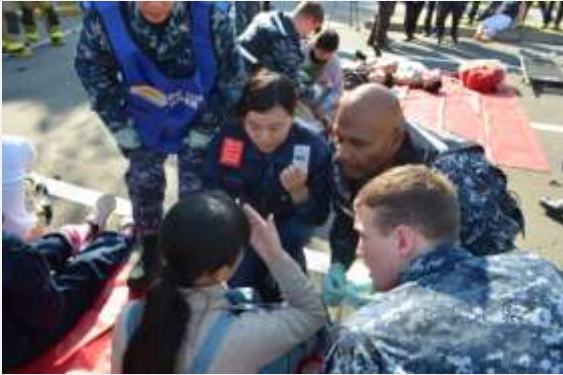
(写真：下) お重詰めを体験した軍人等
参加者からは、「日本に何年も滞在しているが、おせちに込められた各食材の由来ははじめて聞いた」「来年も実施して欲しい」との声が寄せられました。



日米交流事業は、在日米軍施設周辺住民の方々と在日米軍人等との相互理解を深めることが重要であるとの観点から、スポーツや文化活動を通じた様々な交流イベントを主催しており、当局では今回で6回目の開催となりました。

5 日米衛生特別訓練

平成24年11月7日(水)、海上自衛隊横須賀衛生隊、横須賀病院等と在日米海軍横須賀基地医療部隊、米海軍横須賀病院等による日米衛生特別訓練が米軍横須賀基地内で実施されました。当局からは、通訳支援のため、職員2名が参加しました。



トリアージエリアでの通訳支援

※トリアージ：災害医療現場で、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し、治療の優先順位を判断する行為。



日米共同調整所における通訳支援（場所：海軍病院）

日米衛生部隊間における円滑なコミュニケーションを支援するため、初めて当局から参加しましたが、災害医療現場でのトリアージ※のために、医務官からの問いかけや反応の通訳を行ったり、ヘリによる広域医療搬送の通訳支援を行うなど、大変充実した訓練となりました。海上自衛隊からは、当局から通訳官の参加を得たことにより円滑な調整が図れた旨の感謝を頂きました。

6 日米合同原子力防災訓練

平成24年12月11日(火)、原子力空母ジョージ・ワシントンが配備されている米海軍横須賀基地と横須賀市役所において、6回目となる日米合同原子力防災訓練が実施されました。

今年は、始めて地震を想定したシナリオで実施され、SRF(艦船修理廠)で勤務する日本人従業員も避難訓練に参加するなど、実際さながらの訓練となりました。

当局からは、地震発生後、直ちに横須賀防衛事務所から2名が横須賀市緊急対策本部に出動し、基地内の被害情報の把握、原子力空母の放射能漏れがないか、更には基地従業員の安否確認など、連絡要員としての対応に追われました。今回の訓練では東日本大震災の教訓を踏まえ、携帯や固定電話が使用できない状況の中で衛星携帯を使用した連絡調整が行われ、当局も横須賀市に出動した連絡要員と横浜市内の本局との間で通信訓練を実施するなど実践的な訓練となりました。



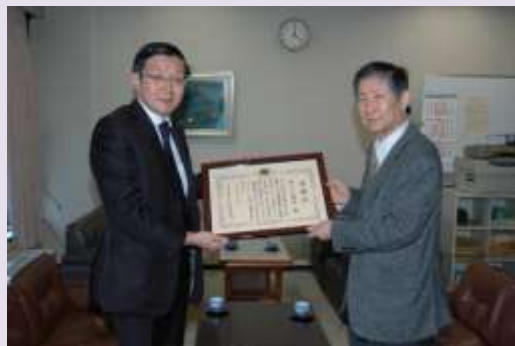
横須賀市対策本部内へ連絡員を派遣
(右奥) 吉田横須賀市長

7 局長感謝状贈呈

平成24年12月7日（金）、我が国の防衛に対する深い理解のもとに南関東防衛局入札監視委員会において委員長として六年間の永きに亘り同委員会の運営に積極的に尽力された 野々山隆幸様に対し、南関東防衛局長から感謝状を贈呈しました。

(参考)入札監視委員会

公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針(平成13年3月9日閣議決定)等を踏まえ、各地方防衛局等が実施する入札及び契約について、入札及び契約の過程並びに契約の透明性を確保するために第三者で構成された審議機関



野々山 隆幸 様 (右)

同じく、12月7日（金）、艦艇造修に携わり、卓越した技術力により、掃海艇「えのしま」の建造に尽力し、海上自衛隊の任務遂行に必要な防衛力の質的向上に貢献された、ユニバーサル造船(株)京浜事業所^(※)に対し、及び、航空機の電子機器及び制御機器等の製造契約に関し、卓越した技術力と確固たる責任感をもって品質管理に尽力し、自衛隊の任務遂行と飛行安全の向上に貢献された、関東航空計器(株)に対し、南関東防衛局長から感謝状を贈呈しました。



ユニバーサル造船(株)京浜事業所



関東航空計器(株)

※ユニバーサル造船(株)は、平成25年1月1日付で(株)アイ・エイチ・アイ・マリンユナイテッドと合併し、ジャパンマリンユナイテッド(株)となりました。

200回に及ぶ夜間巡回パトロール実施に感謝状を贈呈



下町環境対策委員会 上田会長 (左)

米海軍横須賀基地（神奈川県横須賀市）周辺の中
心市街地で、地元町内会が主体となり、米軍や行政
機関等が参加して実施される夜間巡回パトロールが、
平成24年12月7日夜に行われ、平成6年10月
に開始されて以来、200回目を迎えました。

12月12日には、地元町内会で構成される下町
環境対策委員会主催の平成24年の活動を締めくく
る懇談会が横須賀市内で開催され、山本南関東防衛
局長も出席の上、200回に及ぶ夜間巡回パトロー
ルを実施した下町環境対策委員会に感謝状を贈呈し
ました。

(参考)夜間巡回パトロール

平成6年10月以降、毎月1回程度のペースで金曜日の午後10時30分から午前0時までの間、米海軍横須賀基地に近いドブ板通り、京急汐入駅周辺、街中の公園、京急横須賀中央駅周辺等を一巡するもので、途中で会った人々たちへの声掛けを行ったり、路上に落ちている吸い殻や空き缶などのゴミを拾いながら巡回パトロールすることにより、犯罪の防止や街の美化に寄与している。

8 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施

平成24年9月及び11月、沖縄の米海兵隊による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施が行われました。

9月の東富士演習場での訓練は、昨年同様、中隊レベルで実施され、人員約280名、車両約70両及び155mm榴弾砲6門による実弾射撃訓練が、9月9日から18日までの10日間行われ、訓練部隊は9月28日までに撤収しました。

実弾射撃訓練前の9月7日には、米海兵隊キャンプ富士において、訓練部隊である第12海兵連隊第3大隊長等による報道機関に対するブリーフィングが、また、射撃訓練中の13日には、地元自治体や報道機関に対する訓練公開が行われ、静岡県、御殿場市、裾野市、小山町の関係者が参加しました。また、同日、当局山本局長による訓練の視察が行われました。



山本局長による視察の様子



東富士演習場での訓練に係るブリーフィング(上)と訓練公開(下)



11月の北富士演習場での訓練は、東富士演習場での訓練同様、中隊レベルで実施され、人員約200名、車両約60両及び155mm榴弾砲6門による実弾射撃訓練が、11月10日から19日までの10日間行われ、11月28日までに撤収しました。

実弾射撃訓練前の11月9日には、梨ヶ原廠舎地区において、訓練部隊である第12海兵連隊第3大隊長等による報道機関に対するブリーフィングが、訓練期間中の13日には、地元自治体や報道機関に対する訓練公開が行われ、山梨県、富士吉田市、山中湖村、忍野村及び恩賜林組合それぞれの首長、議会議長等をはじめ多くの関係者が参加した。また、同日、地方協力局島田次長及び当局山本局長による訓練の視察が行われました。



北富士演習場での訓練に係る
ブリーフィング(上)と訓練公開(右)



左から、
ブラウン大隊長、山本局長、島田地方協力局次長(当時)



南関東防衛局としては、各訓練期間中に、御殿場市及び富士吉田市のそれぞれの演習場近傍に企画部次長を本部長とする現地対策本部を設置し、約1ヶ月の間24時間体制で米海兵隊との連絡調整、地元への連絡、演習場周辺等の警備、調達業務及び報道機関への対応などに当たりました。

沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散実施は、沖縄県キャンプ・ハンセンにおいて、県道を封鎖して実施していた訓練を沖縄県の負担軽減のため、本土の5箇所の演習場に移転して分散実施することとし、SACO最終報告に盛り込まれ、平成9年度から実施しているものです。

9 横須賀防衛事務所庁舎移転のお知らせ

南関東防衛局横須賀防衛事務所は、平成25年4月22日(月)に新庁舎へ移転しました。

【新所在地】〒238-0005
横須賀市新港町1番地8
横須賀地方合同庁舎

お問合せ先：
横須賀防衛事務所業務課 046-822-2254(代表)

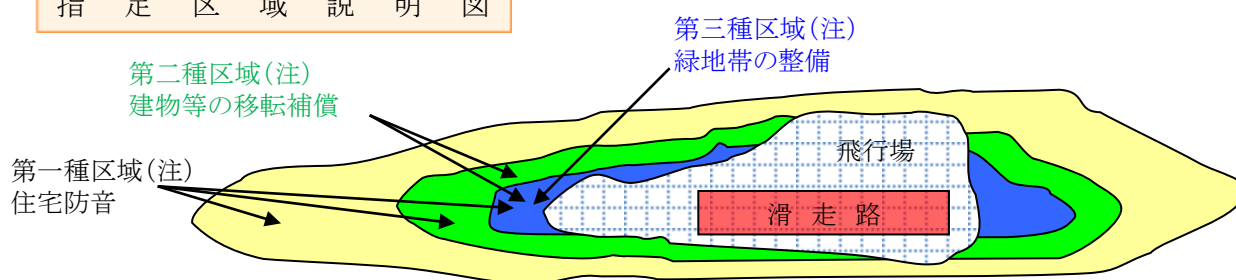


10 移転措置事業における附帯農地等の買入年限（希望届の受付期限）の設定について【お知らせ】

はじめに

南関東防衛局では、防衛施設と周辺地域との調和を図るための施策として飛行場周辺の航空機の離陸、着陸等のひん繁な実施により生ずる音響に起因する障害が特に著しいと認めて指定する区域（以下「第二種区域」という。）に当該指定の際現に所在する建物等を第二種区域以外に移転する方には、建物等の移転等補償や土地の買入れを行う移転措置事業を実施しています。

指定区域説明図



注 飛行場等の周辺で航空機の騒音に起因する障害の度合に応じて次のように定めています。

第一種区域：WECPNL(※)75以上の区域

第二種区域：第一種区域内で、WECPNL 90以上の区域

第三種区域：第二種区域内で、WECPNL 95以上の区域

※ WECPNL(Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level：加重等価継続感覚騒音基準)

ICAO(国際民間航空機構)で提案された航空機騒音を総合的に評価する国際的な単位であり、特に夜間の騒音を重視し、音響の強度、頻度、継続時間等の諸要素を加味して、人の生活に与える影響を評価する航空機騒音の単位です。(一般に「うるささ指数」といいます。)

附帯農地等について

移転措置事業のうち、建物等の移転に伴い従来の利用目的に供することが著しく困難となる第二種区域(上図緑部分)に所在する土地(以下「附帯農地等」という。)の買入れについては、平成24年12月19日に制度の改正を行い、原則として、建物等の移転等補償契約を締結した日の翌日から起算して5年を経過する日までに附帯農地等の買入れの希望届を提出されなければ、附帯農地等の買入れを実施できなくなりました。

なお、制度の改正より前に建物等の移転等補償契約を締結した方については、平成29年12月19日までに希望届の提出が必要になります。

詳しくは南関東防衛局のホームページをご覧ください。企画部防音対策課移転措置係(TEL:045-211-7141)までお問い合わせ下さい。